



青柳博昭さん

profile あおやぎ・ひろあき  
1959年大東町播磨生まれ。震災後、施設栽培を再開。自作の機材で省力化を進めるアイデアマン

アイデア生かし、最適な栽培方法を模索

自動車整備の仕事をしています。定年を見据え、50歳のときシイタケ栽培を始めました。

得意の電気分野を生かして、廃品を資源に、新しいモノや仕組みを考えるのが好きです。専用の植菌マシーンを自作したり、お湯を循環させる温度管理に専用回路を加えたりしています。

原木が高騰した今、コスバよく生産量を増やすカギは、原木1本当たり

の収量を増やすことです。幸いにも温度管理は順調で、収量も右肩上がりです。ほど木の質を競うコンテストでも、上位に入賞することができました。

生産者によって、さまざまな栽培形態を選択できるのがシイタケ栽培の面白いところ。これからも、思いついたアイデアを生かしながら最適な栽培方法を探し当て、仲間と共有したいと思います。

難局を乗り越えるために必要なことは「発想」と「発信」

王国復活に向け、世界を相手に情報発信

脱サラして7年。シイタケの施設栽培とコメの複合経営をしています。

シイタケ栽培の魅力は、コメと比べて栽培工程がシンプルなこと。毎年、さまざまな発見もあって、とても勉強になります。震災後は、約5千本に植菌しました。

サラリーマン時代は、海外に行く機会が多く、そこで気付いたことは食文化の違いです。かつて日本のシイタケ

は「ハレ食」として味付けご飯や寿司などに使われていました。しかし、飽食の現代、ハレ食の意識は薄れつつあり、シイタケの消費は落ち込んでいます。一方、東南アジア諸国で、シイタケを含むキノコ類は、今なお、希少な食材として扱われています。

王国復活には、国内はもとより、需要のある海外に目を向けて発信することも必要だと感じています。



Sato Mikio

佐藤三喜雄さん

profile さとう・みきお  
1953年花泉町老松生まれ。ミネベア音響に勤め、タイ、マレーシアで活躍。09年からシイタケ生産開始



3 確かなこと  
失ったからこそ気付いた大切なヒト・モノ・コト



- 1 「3つください」「私は5つ」。用意した原木生シイタケはあっという間に完売
- 2 イベントを主催した千厩しいたけ生産組合の皆さん
- 3 同日行われた採取体験には、多くの子供たちが参加した
- 4 「So Good!」おいしさは万国共通。試食した人たちに笑顔が広がる



消費者の声は、現実と向き合い、苦難を一つ一つ乗り越えながら前に進む繁さんを強力に後押しする確かな力になった。

円に高騰。生産量を増やすことは容易ではなかった。越えても越えても、また次の壁が立ちはだかる。だが、失った信用を回復するため、立ち止まっては行けない。「まずは地元でシイタケの良さを再認識してもらおう」と6月11日、生産を再開した仲間らと「甕飯! いちのせきの原木シイタケ試食販売会」を開いた。販売会では、原木生

シイタケを販売したほか、地元飲食店の協力を得てシイタケを甘辛く煮込んだ「魯肉飯」(煮込み豚肉かけご飯)を振る舞った。用意した品は開始わずか1時間で完売した。「おいしい。口の中に香りが広がる」

「この日待ってたよ」

うれしかった。寄せられる声に心に染み込んだ。同時に、「品の今だからこそ、シイタケの魅力アピールするチャンス」とポジティブに前を見た。

千厩町千厩の生シイタケ生産者・佐藤三喜雄さんは、施設栽培が中心だ。かつては農協、産直、ホテル、都内のレストランなど多彩なルートで販売していたが、震災で販路の多くを失った。落胆する繁さんを支えたのは家族だった。「大丈夫。お父さんなら、きっとやり直せるよ」

家族に励まされ、再起を決意した繁さん。ハウスやほだ場の環境を整え、何度も県の検査を受けた。こうして2013年12月13日、施設栽培では市内初の出荷制限解除にこぎつけた。

「今は、生産できるだけでいい。これが再生の第一歩」そう自分に言い聞かせた。

消費者の声が進化する力に

震災前1本200円ほどだった原木は、震災後400

家族に支えられ再生生産決意

Interview



佐藤三喜雄さん

千厩地域しいたけ生産組合組合長/いわて平泉農協椎茸部会生椎茸専門部長

profile さとう・しげる  
1948年千厩町千厩生まれ。92年から施設栽培を始める。以来、24年、効率的な生産の技術を高めている。

「待ってたよ」の一言が心に染み込

出荷制限を受けたときは、言葉にならないむなしさを感じました。そんな自分を支えてくれたのは家族でした。「家族のため、地域のために、ここで終わらせてはならない」と再スタートを誓いました。

ハウスの修繕、除染、ほだ場の落葉層除去など少しずつ環境を整えて植菌。県の方針に基づいた栽培を続けて2013年12月13日、出荷制限が解除されました。お客さんの「待ってたよ」という声は心に染み込みました。